
今度こそ...

shuugo

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

今度こそ…

【Nコード】

N9746E

【作者名】

shuugo

【あらすじ】

組織は6年前壊滅。しかし、コナンは元に戻れなかった。そして…灰原哀は…そして今、彼の元にようやく…“今度こそ…お前を離さない”

FILEO (前書き)

いったん心を変えて改装です。

ココ子先生とはかぶらないよう気をつけたいと思います。

FILE O

今度こそ離さない

お前の…

一度は手放してしまったお前の手を

だから

早く帰ってこいよ

待ってるからさ

死んでも帰って来い

そしたら伝えるからさ

俺の本当の気持ちを…

耳にたこができるくらい言ってるよ

お前を愛してるって

なあ…灰原…

FILE 1 「4人」

江戸川コナンが工藤新一と言う名を捨ててはや6年。
コナンは2度目の中学校生活を送っていた。
今まで少年探偵団と共に歩んできた。
…4人でだけ…な

何処で何してんだろな…アイツ…

??? 「コナーンくん!!!!!!」 「」

あれ?あの3人の声がする…何だ?

振り向くと手を振りながらこっちに向かってくる

元太に歩美に光彦

三人とも息を切らして俺をにらんでる。

何故?

コ「どうしたんだお前ら」

光「どうしたじゃありませんよ…コナン君進路希望出してないでしょ?」

コ「あ…」

元「あ…ッじゃねーよ!俺たちが探しにいけって言われたんだぞ」

コ「悪い悪い」

歩「もぉ」

悪気のなさそうなコナンに歩美がほおを膨らませた。
その仕草が可愛らしくて笑ってしまった。

歩「ちょっとー笑わないでよー!」

その一言でさらに笑う。
それにつられて歩美達も笑い始めた。

しばらくして笑い終えた4人は一緒に職員室に行くことにした。
その途中夕日で赤く染まった階段を見て歩美が寂しそうな顔をする。

歩「もう…6年だね…」

コ「…そうだな」

元「さよならも言わなかったんだよな…」

光「……………」

歩「それはたぶん言えなかったんだよ…」

哀ちゃん言ってたよね『さよならはお互いに釘刺す悲しい言葉』
って」

元「でもよお」

コ「おっと…職員室に着いたぜ…送ってくれてありがとな」

歩「え？あ、うん」

元「あ、ああ」

光「で、ではまた」

コナンは職員室に入っっていった。

元「…あいつはどっと思ってんだろっな…」

光「さあ…」

歩「……………」

コ「ててて」

コナンは耳を押さえながら職員室を出た。

あれから担任に説教を食らった。

担任の声はまだ耳に残ってる

『進路関係は大切なんだ！！いいか！？今すぐ仕上げてこい！！…！』

コ「進路なんてどうでもいいっつーの」
アイツがいなくちゃ…

俺は面倒だったが図書室でいろいろ探すことにした。

図書室につきドアをゆっくりあけてはいる。
そしてふと前を見ると…

コ「はい……ばらっ？」

6年前にいなくなったはずの彼女がいた…

FILE2「存在理由」(前書き)

ココ子先生とまたかぶってしまった〜(泣)

お互い気を遣っていくので…(汗)

これからもよろしくおねがいします

FILE 2 「存在理由」

スラツとのびた背筋。

綺麗に整った顔立ち。

そして何より…ウエーブがかかった茶髪。

彼女の姿に見とれてみると彼女が顔を上げた。

哀「工藤君…」

工藤君…

この姿の俺をそう呼ぶ人間はこの世で1人。

灰原哀

つまり…こいつは本物だ…帰ってきたんだ。

コ「灰原…」

哀「久しぶりね」

コ「お、お前…どうして」

言葉がなかなかつながらないのは嬉しいからだろうか

哀「…一昨日帰ってきたの…私の使命も終えたから」

コ「使命？」

哀「此れのことよ」

灰原が取り出したのは1つのカプセル。

まさか!？

コ「APTXの解毒剤？」

哀「ええ…その通りよ」

コ「まさかこのために？」

哀「……ええ」

コ「なんで…何でこんなものの為にお前は」

哀「貴方にとってはこんなものでしょうが私にとって此れは存在理由なの」

此れが？

こんな物がお前の存在理由なのか？

哀「必要なんでしょ？」

そう言うつと俺にそれを差し出してきた。

コ「…じゃあもらうぜ？」

俺はそれを取った。

そして

グシヤッ

潰した。

哀「アッ！！！」

俺の行動に灰原は驚いている。

まあむりのないことだろう。

あんなに解毒剤を欲しがってた男がそれを握り潰したんだから

哀「どうして…」

コ「これはもう俺に必要な…それにこれがお前の存在理由？」

ふざけんな！今のお前はこれが全てだって言うのか！！??？」

哀「……………」

コ「それが全てツツーなら俺が作ってやるよ！お前が存在する理由」

哀「……………」

コ「話は此れで終わりだ！…じゃあな」

俺は図書室を出て行った。

外を見ると空は少し泣いていた。

でも俺の心は少し晴れている気がする。

FILE2「存在理由」(後書き)

改名しました！

江戸川新一さかえいからshuugoへの変更です。

ちよつとある方からご指摘を受けまして…

まあ何がともあれこれからはshuugoとしてお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9746e/>

今度こそ...

2010年10月10日06時57分発行